

石川県の年齢別推計人口 ～令和5年10月1日現在～

石川県県民文化スポーツ部統計情報室
 経済産業グループ 朝田・田村
 TEL (076)225-1342 (直通)
 内線 3749

令和5年10月1日現在の石川県の年齢別推計人口について取りまとめました。
 概要は以下のとおりです。

- 注1 この結果は、外国人を含む総人口についてである。
- 2 総人口には年齢不詳を含むが、年齢別人口割合は分母から年齢不詳を除いて算出している。
- 3 数字の単位未満は四捨五入を原則としたので、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。

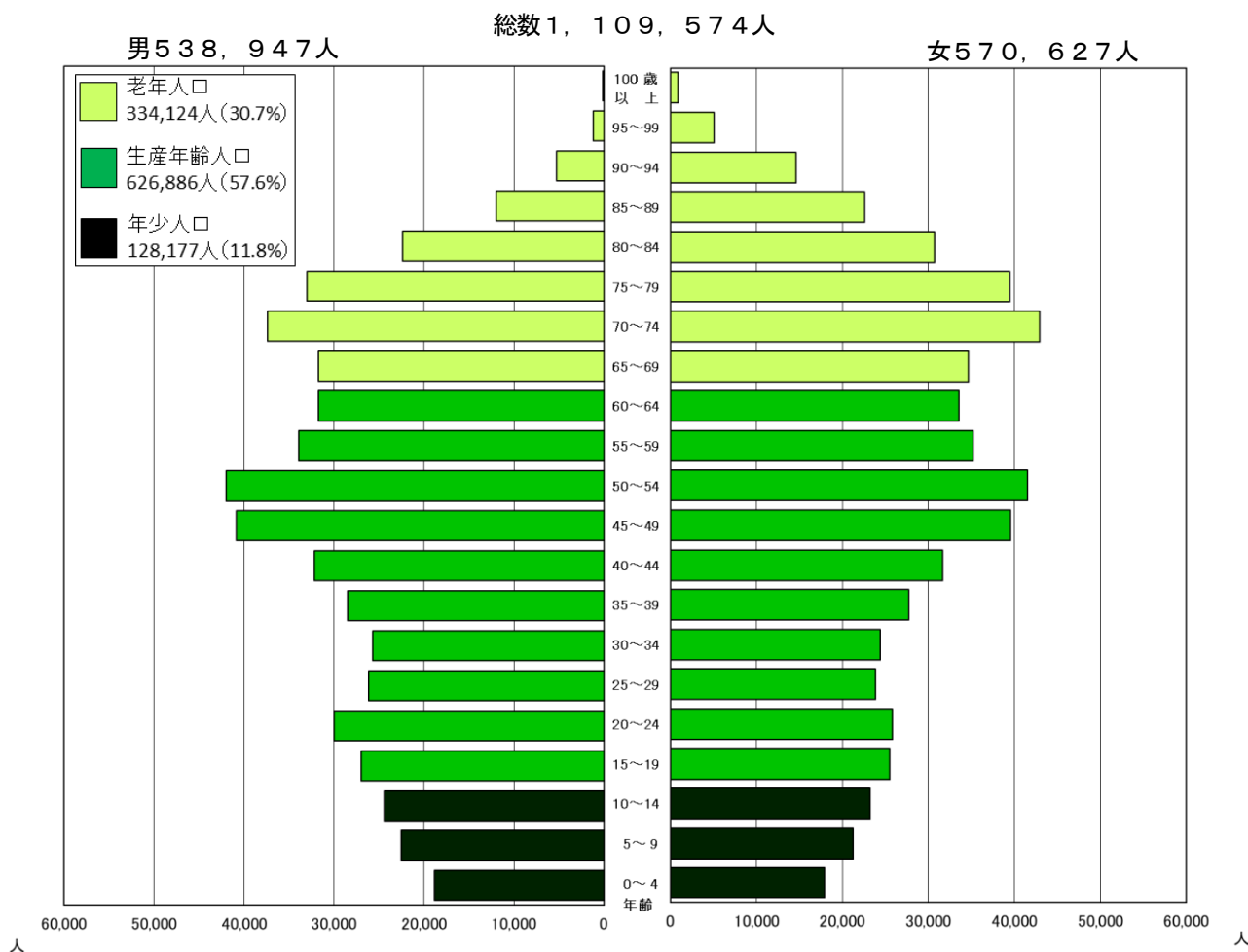
1 年齢（5歳階級）別人口

最も多いのは、50～54歳の83,485人

5歳階級別人口では、50～54歳が83,485人と最も多くなっている。
 次いで多いのは、45～49歳の80,451人、その次が70～74歳の80,301人となっている。

【図1、参考表1】

図1 年齢(5歳階級)・男女別人口(令和5年10月1日現在推計)



注1 70～74歳及び75～79歳には、第1次ベビーブーム（昭和22～24年生まれ）の人口が含まれている。
 2 45～49歳及び50～54歳には、第2次ベビーブーム（昭和46～49年生まれ）の人口が含まれている。

2 年齢（3区分）別人口

年少人口、生産年齢人口及び老年人口の全てにおいて減少

		割合	前年比
年少人口（0～14歳）	128,177人	（11.8%）	△3,298人（0.2ポイント低下）
生産年齢人口（15～64歳）	626,886人	（57.6%）	△4,513人（0.1ポイント上昇）
老年人口（65歳以上）	334,124人	（30.7%）	△442人（0.2ポイント上昇）

（1）石川県の総人口

年齢（3区分）別人口では、年少人口（0～14歳）が128,177人、生産年齢人口（15～64歳）が626,886人、老年人口（65歳以上）が334,124人となっている。

総人口に占める割合をみると、年少人口は11.8%で過去最低、老年人口は30.7%で過去最高となっている。前年に比べ、年少人口は3,298人の減少（0.2ポイントの低下）、生産年齢人口は4,513人の減少（0.1ポイントの上昇）、老年人口は442人の減少（0.2ポイントの上昇）となっている。

また、老年人口のうち65歳から74歳までは146,644人（総人口に占める割合13.5%）、75歳以上は187,480人（同17.2%）であり、それぞれの老年人口に占める割合は43.9%、56.1%となっている。

【図2-1、図2-2、参考表2】

図2-1 年齢(3区分)別人口及び割合(令和4年・令和5年)

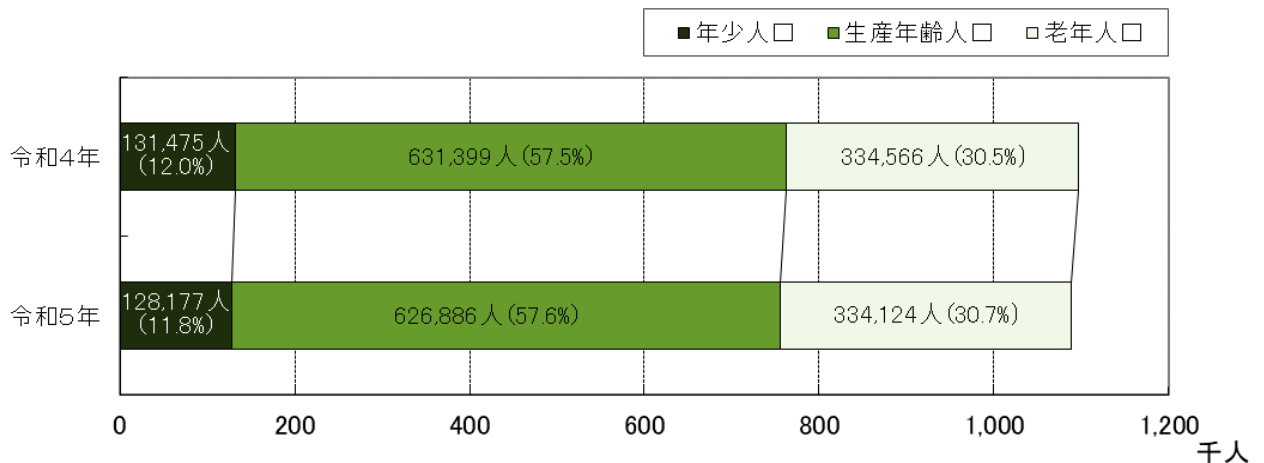
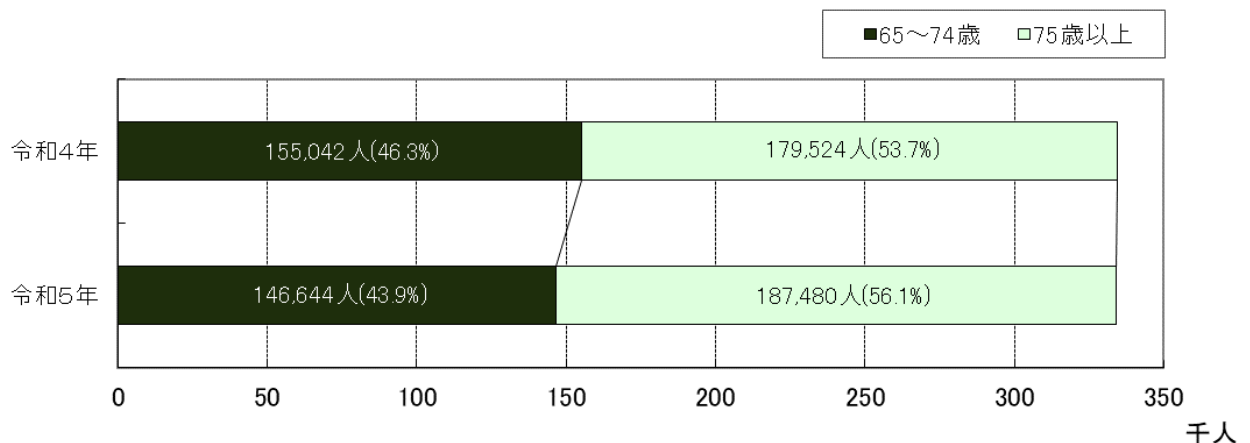


図2-2 老年人口及び割合(令和4年・令和5年)



(2) 市町別人口

市町別に総人口に占める割合をみると、年少人口では川北町の15.0%、生産年齢人口では野々市市の65.2%、老年人口では珠洲市の53.2%が最も高くなっている。

【表1-1、参考表2】

表1-1 年齢(3区分)・市町別人口割合の順位(令和5年10月1日現在)

順位	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	市 町 名	割合 (%)	市 町 名	割合 (%)	市 町 名	割合 (%)
1	川 北 町	15.0	野 々 市 市	65.2	珠 洲 市	53.2
2	野 々 市 市	14.2	津 幡 町	61.1	能 登 町	52.6
3	か ほ く 市	13.9	川 北 町	60.8	穴 水 町	50.6
4	白 山 市	13.4	金 沢 市	60.5	輪 島 市	49.0
5	能 美 市	13.3	能 美 市	60.0	志 賀 町	47.3
15	志 賀 町	8.0	志 賀 町	44.7	金 沢 市	27.7
16	能 登 町	7.0	輪 島 市	44.0	能 美 市	26.8
17	輪 島 市	6.9	穴 水 町	42.6	津 幡 町	25.7
18	珠 洲 市	6.9	能 登 町	40.4	川 北 町	24.2
19	穴 水 町	6.9	珠 洲 市	39.8	野 々 市 市	20.6

(3) 対前年増加率

県全体の対前年増加率をみると、年少人口が2.5%低下、生産年齢人口が0.7%低下、老年人口が0.1%低下している。

市町別に対前年増減率をみると、年少人口ではかほく市の1.6%、生産年齢人口ではかほく市の0.8%、老年人口では津幡町の1.6%が最も高くなっている。

【表1-2】

表1-2 年齢(3区分)・市町別人口対前年増減率の順位(令和5年10月1日現在)

順位	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)	
	市 町 名	増減率 (%)	市 町 名	増減率 (%)	市 町 名	増減率 (%)
1	か ほ く 市	1.6	か ほ く 市	0.8	津 幡 町	1.6
2	白 山 市	△ 1.3	野 々 市 市	0.2	野 々 市 市	0.7
3	小 松 市	△ 1.9	能 美 市	0.2	内 灘 町	0.4
4	津 幡 町	△ 2.0	小 松 市	△ 0.1	白 山 市	0.4
5	野 々 市 市	△ 2.0	白 山 市	△ 0.2	能 美 市	0.4
15	珠 洲 市	△ 5.1	穴 水 町	△ 3.4	志 賀 町	△ 1.6
16	志 賀 町	△ 5.8	珠 洲 市	△ 3.8	輪 島 市	△ 1.7
17	能 登 町	△ 6.4	志 賀 町	△ 3.8	能 登 町	△ 1.9
18	宝 達 志 水 町	△ 6.5	能 登 町	△ 3.9	珠 洲 市	△ 2.4
19	輪 島 市	△ 7.5	輪 島 市	△ 5.9	穴 水 町	△ 2.4

注 増減率 = $\frac{\text{令和5年各年齢区分別人口} - \text{令和4年各年齢区分別人口}}{\text{令和4年各年齢区分別人口}} \times 100$

(4) 10年間(平成25年～令和5年)の推移

総人口に占める割合について10年間の推移をみると、年少人口は、県全体では平成25年の13.4%から令和5年の11.8%へと1.6ポイント低下している。市町別にみると、全ての市町で低下しており、低下幅が最も大きいのは川北町の5.8ポイントとなっている。

生産年齢人口は、県全体ではこの10年間で60.5%から57.6%へと2.9ポイント低下している。市町別にみると、川北町以外の全ての市町で低下しており、低下幅が最も大きいのは、能登町の7.2ポイントとなっている。

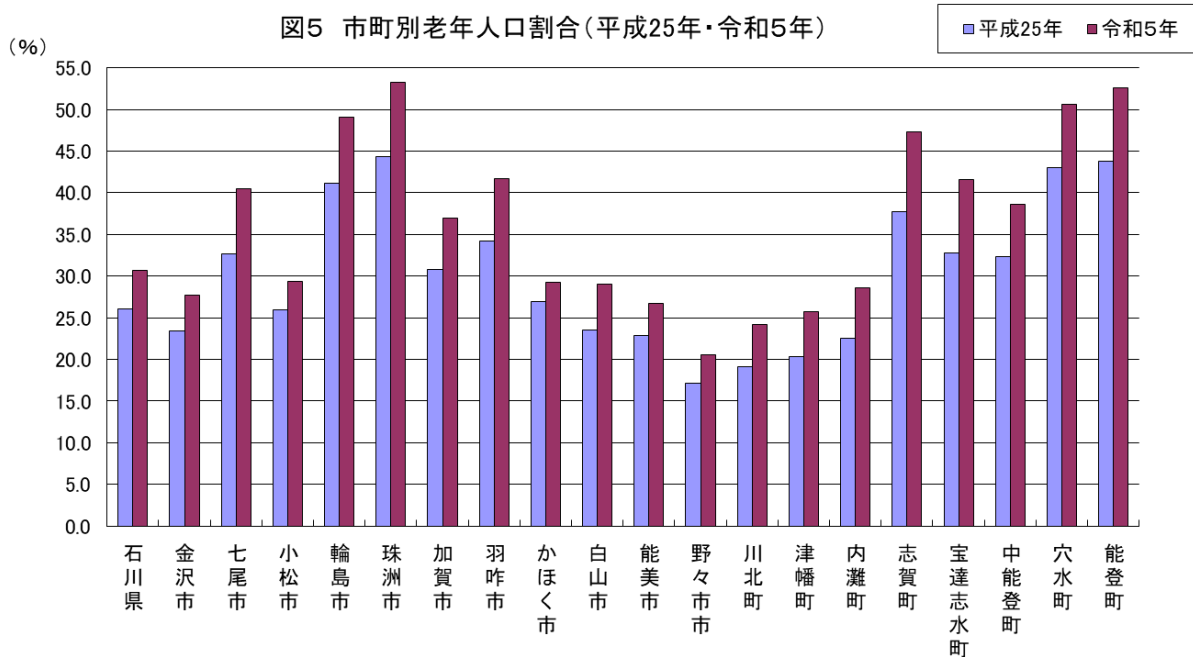
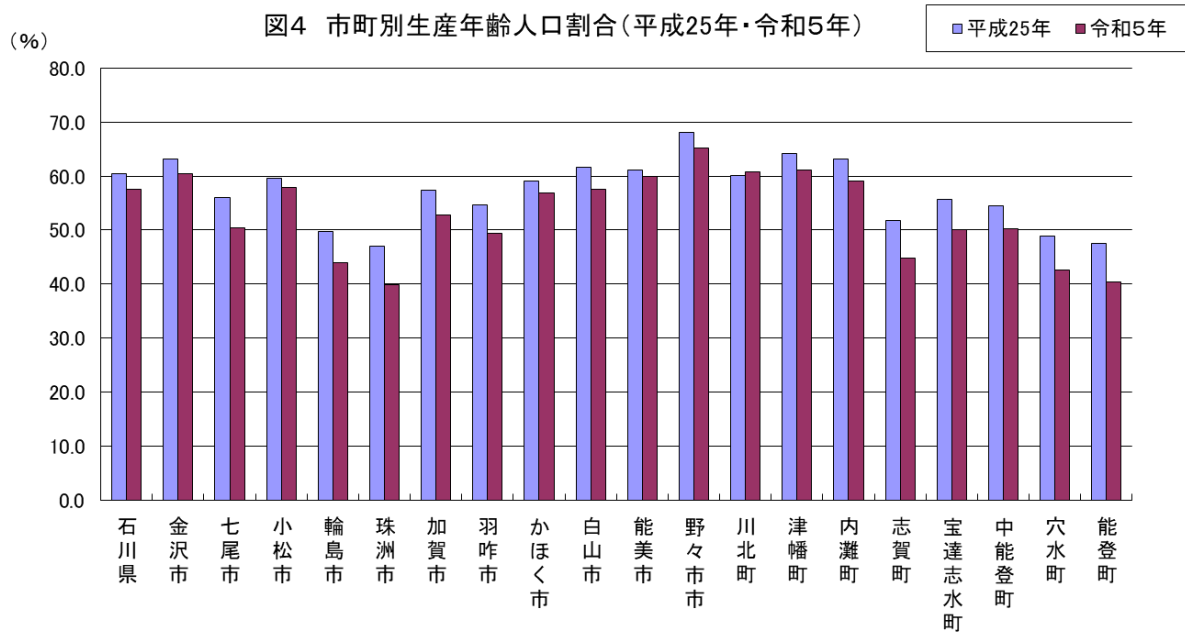
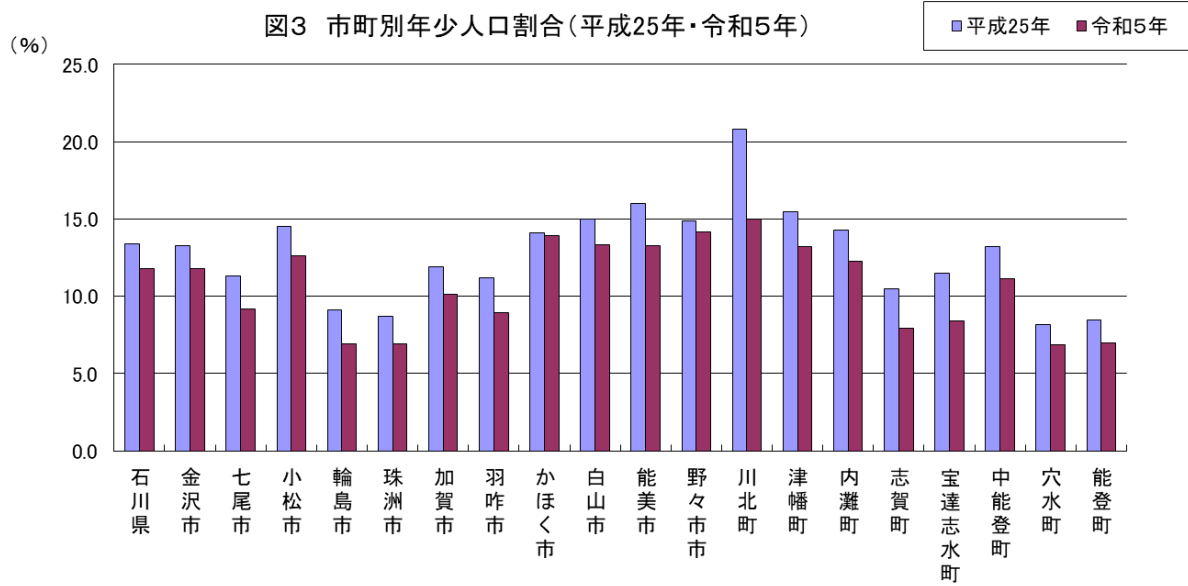
一方、老年人口は、県全体ではこの10年間で26.1%から30.7%へと4.6ポイント上昇している。市町別にみると、全ての市町で上昇しており、上昇幅が最も大きいのは、志賀町の9.6ポイントとなっている。

【表2、図3～5】

表2 年齢(3区分)・市町別人口割合の推移(平成25年・令和5年)

市町名	年少人口			生産年齢人口			老年人口		
	平成25年 (%)	令和5年 (%)	割合の 増減 (ポイント)	平成25年 (%)	令和5年 (%)	割合の 増減 (ポイント)	平成25年 (%)	令和5年 (%)	割合の 増減 (ポイント)
石川県	13.4	11.8	△ 1.6	60.5	57.6	△ 2.9	26.1	30.7	4.6
金沢市	13.3	11.8	△ 1.5	63.2	60.5	△ 2.7	23.4	27.7	4.3
七尾市	11.3	9.2	△ 2.1	56.0	50.3	△ 5.7	32.7	40.5	7.8
小松市	14.5	12.7	△ 1.8	59.6	58.0	△ 1.6	26.0	29.4	3.4
輪島市	9.1	6.9	△ 2.2	49.8	44.0	△ 5.8	41.1	49.0	7.9
珠洲市	8.7	6.9	△ 1.8	47.0	39.8	△ 7.2	44.3	53.2	8.9
加賀市	11.9	10.2	△ 1.7	57.3	52.9	△ 4.4	30.8	37.0	6.2
羽咋市	11.2	8.9	△ 2.3	54.6	49.4	△ 5.2	34.2	41.7	7.5
かほく市	14.1	13.9	△ 0.2	59.0	56.8	△ 2.2	26.9	29.2	2.3
白山市	15.0	13.4	△ 1.6	61.6	57.6	△ 4.0	23.5	29.0	5.5
能美市	16.0	13.3	△ 2.7	61.1	60.0	△ 1.1	22.9	26.8	3.9
野々市市	14.9	14.2	△ 0.7	68.0	65.2	△ 2.8	17.1	20.6	3.5
川北町	20.8	15.0	△ 5.8	60.1	60.8	0.7	19.1	24.2	5.1
津幡町	15.5	13.2	△ 2.3	64.2	61.1	△ 3.1	20.3	25.7	5.4
内灘町	14.3	12.3	△ 2.0	63.1	59.1	△ 4.0	22.5	28.6	6.1
志賀町	10.5	8.0	△ 2.5	51.8	44.7	△ 7.1	37.7	47.3	9.6
宝達志水町	11.5	8.4	△ 3.1	55.7	50.1	△ 5.6	32.8	41.5	8.7
中能登町	13.2	11.2	△ 2.0	54.5	50.2	△ 4.3	32.3	38.6	6.3
穴水町	8.2	6.9	△ 1.3	48.8	42.6	△ 6.2	43.0	50.6	7.6
能登町	8.5	7.0	△ 1.5	47.6	40.4	△ 7.2	43.8	52.6	8.8

注 各年10月1日現在



3 人口動態

令和4年10月1日から令和5年9月30日までの1年間で、自然動態は出生者数7,013人、死亡者数14,976人で7,963人の減少だった。社会動態は県外からの転入者数24,073人、県外への転出者数24,363人で290人の減少だった。

【表3～5、参考表4】

表3 年次・要因別人口動態(平成25年～令和5年)

年次	人口増減数	自然動態			社会動態			国勢調査 結果による 補間補正数
		自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数	
平成25年	△ 3,616	△ 2,962	9,515	12,477	△ 976	21,958	22,934	322
26	△ 3,243	△ 2,949	9,159	12,108	△ 616	21,588	22,204	322
27	△ 2,730	△ 3,205	9,263	12,468	153	22,345	22,192	322
28	△ 2,717	△ 3,278	9,052	12,330	88	23,110	23,022	473
29	△ 2,897	△ 3,858	8,773	12,631	487	23,717	23,230	474
30	△ 4,009	△ 4,257	8,485	12,742	△ 225	23,886	24,111	473
令和元年	△ 5,310	△ 4,766	8,048	12,814	△ 1,018	24,786	25,804	474
2	△ 6,549	△ 4,955	7,855	12,810	△ 2,067	21,755	23,822	473
3	△ 7,380	△ 5,791	7,404	13,195	△ 1,589	21,056	22,645	-
4	△ 7,319	△ 6,623	7,208	13,831	△ 696	23,573	24,269	-
5	△ 8,253	△ 7,963	7,013	14,976	△ 290	24,073	24,363	-

注1 各年の人口増減数は、前年10月から当年9月までの自然動態、社会動態及び国勢調査結果による補間補正数の計である。
2 県外には国外・不詳を含む。

表4 市町別自然動態の順位(令和4年10月1日～令和5年9月30日)

順位	増加			減少				
	増加数(人)	増加率(%)		減少数(人)	減少率(%)			
1	野々市市	81	野々市市	0.14	金沢市	△ 2,349	穴水町	△ 2.55
2					加賀市	△ 808	珠洲市	△ 2.50
3					七尾市	△ 670	能登町	△ 2.37
4					小松市	△ 601	輪島市	△ 2.32
5					白山市	△ 535	志賀町	△ 1.88

注 令和4年10月から令和5年9月までの1年間の計である。

表5 市町別社会動態の順位(令和4年10月1日～令和5年9月30日)

順位	増加			減少				
	増加数(人)	増加率(%)		減少数(人)	減少率(%)			
1	白山市	328	かほく市	0.80	輪島市	△ 387	輪島市	△ 1.68
2	小松市	310	白山市	0.30	七尾市	△ 277	志賀町	△ 1.06
3	かほく市	279	小松市	0.30	志賀町	△ 189	能登町	△ 0.64
4	金沢市	150	能美市	0.21	加賀市	△ 146	珠洲市	△ 0.61
5	能美市	102	津幡町	0.13	野々市市	△ 95	宝達志水町	△ 0.59
					能登町	△ 95		

注 令和4年10月から令和5年9月までの1年間の計である。